

次世代高規格ユニットロードターミナル検討会（第2回）

議事要旨

日時：令和5年3月28日（火）10:00～12:00

場所：中央合同庁舎2号館 共用会議室3A・3B（web併用）

- 内航フェリー・RORO船社へのアンケート結果、内貿ユニットロード貨物流動調査の結果速報、次世代高規格ユニットロードターミナル形成に向けた方向性（案）、情報通信技術に係るサウンディング調査、WGの結果概要、検討会の今後の進め方、荷主・フォロワーへのアンケート調査について、事務局から説明した。
- 意見交換では、構成員から、以下のような意見があった。

<議事（1）について>

- ・ 内貿ユニットロード貨物流動調査結果の長距離フェリー・RORO船のトラック・トレーラー輸送台数については、サンプル調査であり、データの分析においては2017年の調査期間中にフェリーがドックに入っていたことがあったことにも留意する必要がある。
- ・ 内航フェリー・RORO船で輸送する貨物について、冷凍貨物に加えて、温度管理が必要な野菜等の冷蔵貨物も増えていることから、船内においてリーファープラグを増やしているところ。一方、陸側のヤードでは、リーファープラグが十分整備されておらず、不足分はトレーラーヘッドのエンジンを動かして対応している。
- ・ ヤード内におけるリーファープラグの整備に当たっては、単純に数を増やせばいいということではなく、給電設備など必要な設備が置けるよう、十分なヤード面積が必要となることに留意が必要である。
- ・ 内貿ユニットロード貨物流動調査結果の長距離フェリーでの輸送品目について、製造食品（3位→1位）や野菜・果物（6位→3位）が2012年から2022年で順位を上げる中、取り合せ品が1位から10位に順位を落としており、小ロットで輸送される貨物の中で異なる傾向を示している。原因として何が考えられるのか、確認いただきたい。
- ・ アンケート結果で平均消席率が7割となっているが、貨物量には季節変動がある。また最近では、物流事業者が働き方改革等の流れの中、週末に休みを設ける関係で、週末と週央の輸送需要のギャップが大きくなってきている。
- ・ フェリー・RORO船を用いたコンテナ輸送について、直置きにすればコンテナを重ねられるためヤードや船内のスペースを有効に使えるが、荷役に時間がかかる。トレーラーやコンテナオンシャーシであればスムーズな乗下船ができるため、効率的な輸送のためには、基本的には十分なヤード面積を確保してトレーラーやコンテナオンシャーシを活用するのが望ましい。

<議事（2）について>

- ・ 情報通信技術に係るサウンディング調査について、ナンバープレート等の読み取りの認識率については、その精度によって提案の内容が変わる可能性がある。提案いただくに際しては、認識率の異なる複数の技術を提案いただくことも可能としてもらえるとうい。

<議事（3）について>

荷主・フォワーダーへのアンケート（案）について、以下のような意見があった。

- ・ 回答者がどのような貨物をどういった距離帯で運んでいるかによってモーダルシフトの検討状況も変わるため、現状運んでいる主な貨物の品種や輸送距離を確認する問を追加すべきである。
- ・ 事業者の中には、船の輸送スペース不足のため貨物を受け入れてもらえないのではないかと考えている方がいると聞いたことがある。「モーダルシフトを検討する見込みはない」にチェックされる方にも、その理由として、「船の輸送スペースが不足しているため」を選択できるよう追記すべきである。
- ・ 最近、輸送経路の検討について、2024年問題を控え、荷主の中に、関連の物流会社への委託から、自社での検討を行う形に切り替えている方も現れていると聞いている。輸送経路の意思決定を行っている者について聞く問の自由記述欄において、将来的な意思決定者の変更の見通しについての記述の例示を追加すべきである。

(以上)